

呼吸理学療法学

准教授 與座 嘉康
Yoshiyasu Yoza

現在の研究テーマと内容

呼吸リハビリテーションの効果には、(1)呼吸器症状(呼吸困難感、咳、痰など)の緩和、(2)運動耐容能や達成能力の改善、(3)日常生活活動・健康関連QOLの改善、(4)呼吸器疾患やその管理に関する知識の増加、(5)病態の安定、(6)入院頻度・期間や医療費の現象、(7)延命効果、(8)心理社会的症状の改善などがあげられる。これらのエビデンスは主に慢性閉塞性肺疾患（COPD）を対象として検討されてきた。呼吸リハビリテーションはCOPD以外の慢性呼吸器疾患（たとえば間質性肺炎など）にも適応があるが、現状ではエビデンスが不十分である。今後はこの方面でも研究の進展を目指す。

また、最近では健康増進の分野において、全身持久力評価の開発および妥当性・信頼性についての研究も行っています。

これまでの研究成果と今後の展開

Development of an activity of daily living scale for patients with COPD: The Activity of Daily Living Dyspnoea scale. *Respirology* 14:429-435,2009.

半座位エルゴメータを用いた多段階運動負荷試験における、携帯型呼気ガス分析器(METAMAX 3B)と固定型呼気ガス分析器(AE-310S)の比較. *理学療法科学* 28 : 487-490, 2013.

20m Shuttle Run Test のプロトコルを用いた15m Shuttle Run Test による全身持久力評価の試み. *理学療法科学* 29 : 491-495, 2014.

大学院を目指すみなさんへメッセージ

呼吸リハビリテーション分野において自ら行っている各評価やアプローチに対しての検討など臨床研究を行いたい方、健康増進分野における全身持久力評価および運動処方、身体活動量などに関する研究を行いたい方、一緒に研究をしませんか。